第39期　園芸学科通信　平成28年12月25日（日曜日）

園芸学科通信

第３号

レイカディア大学・米原校

◆選択講座を受講する◆
・花の育て方・管理の基本
・正月用洋風寄せ植えづくり

講師　樹木医　南　敏孝　氏

今月最初の選択講座は、十二月十五日に文化産業交流会館の第２会議室で受講しました。今回は、滋賀県立農業大学校の講師で樹木医の南　敏孝氏の講義で、午前中は、「花の育て方と管理の基本」を、午後からは、楽しみにしていた寄せ植えづくり。事前に講師が用意していただいた花々「プリムラ・コニファー・ジュリアン・ガーデンシクラメン・葉ボタン・レースラベンダー・ボリアンサ・ヘデラ」を使っての寄せ植え、「正月用洋風寄せ植えづくり」を受講しました。

この日の午前中の講座は、「園芸とは囲われた中（柵の中）で労力を得て物を作ることである。」といわれ、野菜、花卉（草花）、果樹を扱う農業の総称であります。今回は、花卉（草花）の育て方を受講しました。

まず、草花の種類について、果樹や野菜に比べると非常に多く、園芸化したものだけで８０００種以上になり、グループ分けしておかないと不便であるので、科・属・種・変種品種等に分類化されています。例えば、米については、コシヒカリ、キヌヒカリ、ミズカガミなどがあげられ、このことで科目、品種まで覚えることが出きます。

具体的な育て方は、種子を蒔いて増やす種子繁殖、さし芽で増やす栄養繁殖がある。中には、植物のバイオテクノロジーの応用で早くから実用化されている組織培養による繁殖方法で、組織の一部を切り取り、茎頂の培養（茎頂培養：ケイチョウバイヨウ）を行うことでウイルスに侵されていない無菌状態のウイルスフリー苗を得ることが出きることを学びました。

午後の講義は、正月を控えた今、園芸学科として習っておきたい「寄せ植え」の実技です。会議室の中は、綺麗な花の良い香りが充満し、目や鼻を楽しませており、早く一緒にして完成してくださいと言っているようです。

事前に準備された寄せ植えの花々たち

個人に割り当てられた苗や植木鉢の配布が終わるや否や、みんなは苗を並べています。講師が作った完成見本を見ながら、与えられた課題に添って、レイアウトを考えています。風の流れや光の射し込み、水の浸透を考え、いろいろな花の苗を植木鉢に仮り置きし、花の咲き具合を想像しながら配置を考えるなど、植え込みが完成するまでの間、本当に楽しいひと時を過ごしました。寄せ植えが完成すると、自分の作品を持ち寄り意見交換をしました。

以下は、パワーポイントを使って講義を受けた「寄せ植え」の内容です。今回の寄せ植えに関して用意していただいた材料を列挙すると、

・植物苗・植木鉢・鉢底ネット・鉢底石
・培養土・移植ごて・割りばし・粒状の緩効性肥料（マグアンＫなど）

1. 鉢底ネットを鉢穴の上に敷く
2. 緩効性肥料を混ぜた培養土を入れる
3. 花の苗をレイアウトを考えて並べる

※バランスの良い寄せ植えを作るには花の苗を、３タイプ「高さ・左右・下に垂れ下がる」に分け、メインやサブの植物を決め、葉物植物で調整。

※寄せ植えを長く楽しむには、日当たりなのか、日蔭なのか、乾燥気味なのか水を好むのか・・・など、性質の合った条件。開花期の長い、生育の良い、病虫害の被害を受けない丈夫なものを選ぶと楽しみが増します。

4. レイアウトを考える

※背の高いものは、中央か後方に置くと美しい。

5. 根をほぐす

※根がよく回っている場合は、指やハサミでほぐし、十字に切り込みをいれて切り取る。表土のごみは取り除く。

6. 植え付け

※背の高いものから用土を足しながら株間を十分にとる

7. 用土を足す

※ウオータースペース（鉢の縁から下２センチほど開ける）を確保し水やり時に溢れないように、隙間が出来たら割箸で丁寧に用土を足す。

8. 水やりのコツ

※加湿にしない、鉢の表面が乾いてからたっぷりやる、を基本に鉢底から流れ出るくらいを目安に、夏場と冬場には気を付ける。

9. 肥料について

※緩効性肥料とは、ゆっくりと長く効く肥料で、元肥といい、植え付け時混ぜ込みます。

※液肥とは、液状の肥料で速効性がありストレートタイプと薄めて使うタイプがあり、２週間に１回ぐらい施肥する

※ＮＰＫ（窒素・リン酸・カリ）の効果
窒素（葉や茎の生長・栄養生長）リン酸（花や果実の生長・生殖生長）カリ（根の生長・耐病性や耐寒性を増す）
寄せ植えには、バランスよい施肥

映像による講義が終わったら、いよいよ実技による「正月用洋風寄せ植えづくり」の本番です。それぞれが教材を手に思い思いの場所を選んで取掛りました。

寄せ植え作りを始めて１時間ほど経過した頃、多種多様の花の苗を使っての寄せ植えに、それぞれのテーブルには、色とりどりの作品が並びました。

準備もおわり、それぞれが作品づくりに取掛る

◆地域活動体験学習報告会を開催◆
～米原校・第３８期生が発表～

レイカディア大学米原校、第３８期生による「地域活動体験学習報告会」が、十二月一日十時から滋賀県立文化産業交流会館小劇場において開催されました。

この日は、講師の滋賀県立大学地域共生センター准教授・森川　稔先生の講評がありました。

地域活動体験学習については、学生が地域活動活性化の担い手として登場できるように支援することを設立目的のひとつとしている。とあり、卒業後の地域活動をより確かなものにするため、地域との関わりや繋がりをみずからつくる体験「地域活動体験学習」を実施。在学中に地域活動を体験し、地域住民とともに地域の課題に取り組む力を身につけることも目的のひとつで、これは必修講座であり学生全員が取り組んでいます。

体験学習報告会は、第３８期生が司会や進行等を担っており、校歌斉唱、開会の挨拶、講師の紹介の後、事例発表が行われました。

プログラムは、「ボランティアの日の体験学習報告」から始まりました。最初に、ボランティアの日の説明があり、その内容は以下の通りで、

①なぜするの？　地域の担い手として活躍できるよう大勢で活動を体験
②どんなものをすればいいの？　学習している分野で全員が活動できる
③いつすればいいの？　授業のない日でいつもの授業時間帯
④何日すればいいの？　前期後期の１年間で１日です
⑤今までどんなことをしたの？　愛知川河畔の竹林整備・田川カルバート公園整備・西の湖のヨシ刈り・・・

の説明がありました。その後、園芸学科、健康づくり学科、北近江文化学科からそれぞれの体験学習報告がありました。

次に、地域活動について、園芸学科の発表件数７件、健康づくり学科発表件数２件、北近江文化学科発表件数３件、合計１２件の体験学習報告がありました。

それぞれの学科の発表者は、パワーポイントを駆使して、よくまとめられてお り素晴らしい発表となりました。

その後、森川稔先生の講評があり「楽しく活動し無理をしないこと」「仲間を作り、人との繋がりを広げること」「ステップアップ学習で学ぶことを深める」ことで、参加から自分で立ち上げる参画主体で行うことが大切であると講評がありました。

編集後記

平成２８年１２月２５日発行「第３９期・園芸学科通信第３号」をお届けします。

今月の基礎選択講座は、今まで園芸における樹木や花卉の基礎知識を前提として講義を受けてきました。今月は、正月を前にして「正月用に洋風寄せ植え」を、実際に花や用土を使用して、花の位置や配色等のレイアウトを考えながら植え込みする方法を学びました。また、３８期生が体験した「地域活動体験学習」の報告会があり掲載しました。

来年は、３９期生が体験学習報告会を行わなければならないので、取り上げてみました。

「園芸学科通信」を、より充実した内容の誌面にするために園芸学科生の投稿をよろしく。（佳）

滋賀県レイカディア大学・米原校
園芸学科情報委員会　発行